

平成 28 年度 第 3 回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：平成 28 年 8 月 19 日（金）18:30～19:45

会 場：庁議室

参加者：名取 はにわ会長・徳田 ユミ子委員・斎藤 利之委員・柘植 宏実委員・
本田 純委員・佐賀 律子委員・森山 義雄委員・師岡 範昭委員

事務局：生活文化課長・男女共同参画係長・男女共同参画係員

○議題

- (1) 東久留米市第 2 次男女平等推進プランの進捗状況評価について（平成 27 年度事業）
- (2) その他

・議題 (1) 東久留米市第 2 次男女平等推進プランの進捗状況評価について（平成 27 年度事業）
（各ワーキンググループリーダーより、評価作成を終えた所感）

会 長：A 評価が続いているところがあった。A 評価をつけられるというのは気持ちのよいことであり、大変うれしく思っている。生活文化課が担当している法律・条例の啓発・広報について、ともすると男女共同参画社会基本法や女子差別撤廃条約の話になりがちだが、最近では女性活躍推進法が成立し、育児・介護休暇の改正もあった。このような女性を応援するような法改正について手広く市民に広報を行うという視点を持ってもらいたい。

委 員：目標と実施していることに乖離が感じられた。複数課にまたがっているものに関しても、どちらかに統合できないかというように、内容そのものの見直しが必要ではないかという議論が各委員からあった。現行のプランにおいても、状況に応じて随時見直しを行っていくという方針で、報告書のシートを作成した。今後もそのような形で進めていきたい。

委 員：女性の積極的な参画によって、政策・方針の立案・決定段階に多様な視点を提供することが重要であり、そのための推進体制整備が求められている。（福祉総務課について）老人クラブ会員の 7 割が女性であるにもかかわらず、連合会役員の女性の割合が 0%であるのは問題ではないか。（防災防犯課について）防災会議委員の女性の割合が着実に伸びている点を評価する。消防署職員への女性の参画を検討していただきたい。（職員課について）男女共同参画（独自研修）が定期的には実施されていない。非正規雇用者の待遇改善は行われているようであるが、非正規雇用の多くが女性であるという点が、これこそ問題ではないかと感じた。女性管理職の数が平成 24 年から伸びていないところが問題だと感じた。（企画調整課について）プロジェクトチームへの女性職員の登用が実質的には行われていないような状況なので、問題である。（生活文化課について）女性職員が昇格試験を受験しない理由の把握をお願いしたい。市民企画講座に対す

る応募数が減少していることについて対策を講じてほしい。男女平等推進センターの充実・強化というところで、一つ一つの項目が緻密に着実にやっているような感じで書かれており A 評価とした。

(進捗状況評価についての意見)

事務局：評価を行って意見をいただく中で、実態にそぐわない事業もあるのではないかという意見がいくつか出ていた。

会長：これから答申の作成に向けて動いていく必要があり、みなさんからもご意見を頂戴したい。一昨年度から行っている表彰について、定着してきた印象がある。今年度も引き続き実施することとしたい。昨年度表彰を行った防災防犯課には、女性の消防団員が 0 である点を改善してもらいたいという話をしたが、未だ状況が変わっていない。障害福祉課も、評価が落ちてしまった。

事務局：障害福祉課は取り組みが変わっていない。コメント自体も大きく変化をしていなかった。もう一歩進んだ取り組みをしてほしいということで、今年度は評価を落とした。

会長：今年度の評価の対象は、生活文化課、図書館、健康課の 3 課を対象とする。今年度は通常の単年度評価の他、過去 5 年分の評価の振り返りを行った。5 年前に作られたプランに基づいて評価を行うことについて、その一部が時代にそぐわないものとなっていることから、違和感を持った部分はなかったか。また、このプランは、男女共同参画施策の中心となる事業と、周辺となる事業を同じ重さで扱っている。そうすると、各担当課が本来の業務に加えて男女共同参画を進めるのは難しだろうという点、さらに、男女共同参画を実現するビジョンがはっきりしない点等、色々と課題があるような気がする。このようなことについて、何か意見はあるか。

委員：報告書の書きぶりで評価が変化してしまう。本来は各課がどんな仕事を受け持っていて、その中で男女共同参画の視点を持つべき事業を示し、その事業の進展具合について何らかの指標を持って評価をすべきである。さもないと、書きぶりによって評価が左右されてしまうことになる。明確な数字でわかる指標で評価していかないと、どうしてもばらつきが出てしまう。

委員：各事業の中で、男女平等をどのように発揮していくかということについて、各課の共通認識としての何らかの指標を作っていくべきではないか。現状では各課が独自に指標を出しているが、それが合っているか検証できない。

委員：定量的な数値目標が設定されているのであれば、それを達成したかどうかという評価ができるが、報告書が抽象的な表現になっていると、果たしてどういう評価をするのが適正なのか疑問を持った。

委員：部署によって達成度が異なるため、何かしらの基準を設けるべきではないか。

会長：みなさん共通の思いをもっている。講座数、参加者数、女性比率等のわかりやすい数値があれば評価しやすいが、書きぶりによって評価が左右されてしまっ

ている。私たちも適切な評価ができているのか、自信を持ちにくい。

事務局：シート一つひとつに各課の仕事そのものについて記載するのは、理想ではあるけれども、そこまでは難しい。しかしながら、この報告書に書かれている以外に各課が所掌している仕事について、委員のみなさまに一覧表をお示するというのも一案である。また、評価の統一性については、各職員の意識レベルで差が出てしまう部分もある。職員に報告書の作成を依頼する際に、もっとわかりやすい資料をつけて説明をしないと、全体の統一性が保たれない。何らかの改善をしていきたい。

会長：評価をしやすくするための提案や各課に対する要望があれば、答申にどんどん書き込んでいきたい。

事務局：同じ施策に対し、それぞれが担う部分から報告書を書いてもらっている。最終的に一つの目標に向かうために、評価の中でもしきりに連携を促している。しかし、報告書が課単位であがってくる形式となっているため、結局自課の担当した部分しか記載せず、戻ってきた評価票についても、自課の部分しか見ないということが考えられる。それがもし一緒になれば、そのことが連携のきっかけになるのではないか。評価を実施する効果を高めることもできるのではないか。

会長：現状では、計画の実現に向けて、課同士で調整を行うこともなく、それぞれの課が独自で動いているのか。

事務局：そういった状況が見受けられる。生活文化課はまとめ役として、各課に調整をしに行ったりしたが、生活文化課からすれば男女共同参画の推進にあたりと判断できるような取り組みを行っていても、相手方はそう感じていないということがあった。たまたまそうなった、から一歩進んで、意識して行ったというところまで持っていくために、先ほど申し上げたようなことが必要ではないかと考える。

会長：同じ事業について、色々な課が色々なことを書いているが、それを統一したアウトプットがなかなか見えない。複数の課にまたがる事業については、どのようにこの事業に取り組んでいくのかということについて事前に調整を行い、実際に行ったことを報告してもらおうと統一性も担保でき、進捗状況もよくわかる。

事務局：評価通番の下に事業通番が複数ぶら下がっているような場合がいくつもある。次期計画においては、これらをできるだけ統合して、体系的に整理をしたい。

会長：次期計画においては、複数課にまたがる事業について、とりまとめ課を明確にするということも答申に盛り込んでいきたい。

事務局：現行のプランの始期は23年度で、そこから諸制度も変更があり、象徴的なところでは、女性活躍推進法が成立している。場合によっては、来年度は同法に関する追加項目を増やした評価を行っていきたい。

会長：5年計画や6年計画になると、どうしてもその時点の計画になってしまう。計画期間中に、制度が変更したり、新法が成立したりすることも考えられるため、当初ないものについても追加ができるような計画としてほしい。今年4月に施

行された女性活躍推進法についても、本来は今年度評価を行っている昨年度分の事業報告に記載されるべきであった。答申の中できちんと明記し、フォローを行って欲しい。

(重点施策についての意見)

会 長：重点施策 1 の「センター講座参加者アンケート」について。大変数値が悪く、また母数も大変少ないと聞いている。この数値は参考程度の扱いとした方がよいのではないか。

事 務 局：講座の参加者へのアンケートということで、10 数名単位でアンケートを取っており、変動要素も大きいと考えている。母数の多い「市民アンケート」と同列に扱うのは無理があると感じる。欄外で参考値として扱うこととしたい。

・議題 (2) その他

(今後のスケジュール等について)

事 務 局：次回の会議は、9 月 16 日 (金) である。主要議題は、今回と同じ平成 27 年度事業の進捗状況評価を予定している。今回いただいた意見を取りまとめた上、答申文の案を作成して、みなさまにご提示し、ご意見をいただきたい。第 5 回の会議は、次期プランの策定が議題である。10 月の上旬から中旬ぐらいにかけて開催したい。後日、日程調整をさせていただく予定である。

○次回会議

9 月 1 6 日